

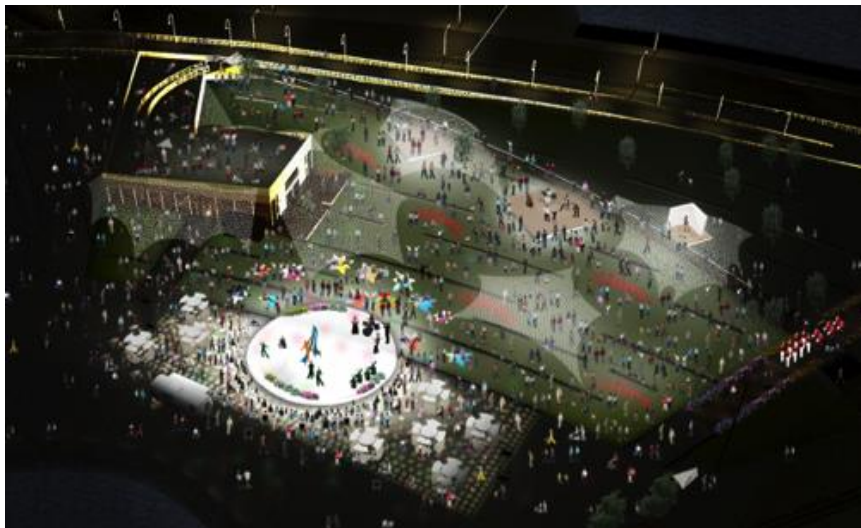
ヨコハマ・パトリエンナーレ 2017
1万人の市民と国内外 40組のアーティストが創るフェスティバル！
『不思議の森の大夜会』^{だいやかい}プログラム詳細 & 参加アーティスト追加発表

横浜ランデヴープロジェクト実行委員会では、障害のある方と多様な分野のプロフェッショナルが協働し、新しい芸術表現を生み出していくアートプロジェクト「ヨコハマ・パトリエンナーレ 2017」を、第1部「創作」、第2部「発表」、第3部「記録展示」の3部構成で実施しています。

このたび、第2部「発表」として実施する『不思議の森の大夜会』のプログラムと参加アーティストが決定しましたので、お知らせします。

『不思議の森の大夜会』では、第1部でアーティストと市民が協働で創作した空間インスタレーションやパフォーマンス、アート、食のプロジェクトが一体化。

今回展のテーマ「^{センス オブ ワンネス} sense of oneness とけあうところ」を体感できる、参加者ひとりひとりの個性がとけあう不思議な世界が出現します。



<http://www.paratriennale.net>

■『不思議の森の大夜会』開催概要

日時: 10月7日(土) 18:00~21:00(公開リハーサル)

10月8日(日)、9日(月・祝) 16:00~21:00

会場: 象の鼻テラス、象の鼻パーク

- 内容: 1. コンセプト&ドキュメント展示
2. 会場構成(空間インスタレーション)
3. パフォーマンス・ステージ
4. アート・ステージ
5. フード・ステージ

料金: 入場無料

※ 特別有料プログラム(ツアー型パフォーマンス「不思議の森の大夜会」フルコース)あり(詳細 P4)

※ 天候により一部プログラムが変更になる場合がございます。

第2部<発表>『不思議の森の大夜会』プログラム

1. コンセプト&ドキュメント展示 **詳細追加**

前回展のテーマ「first contact はじめてに出会う場所」から今回展のテーマ「sense of oneness とけあうところ」に至る成長の過程を展示します。また、前回「世界に溶ける」というタイトルで自閉症をリサーチし、今回展のコンセプト「とけあう」世界へと導いた、現代芸術活動チーム目【め】によるコンセプトビジュアルとテキストを展示します。また、2014年から継続されている横浜市内の福祉施設港南福祉ホームとミナ ペルホネンによる刺繍のプロジェクトから生まれた作品も併せて展示します。

アーティスト: 目【め】、港南福祉ホーム(布:ミナ ペルホネン)



港南福祉ホームによる作品の写真

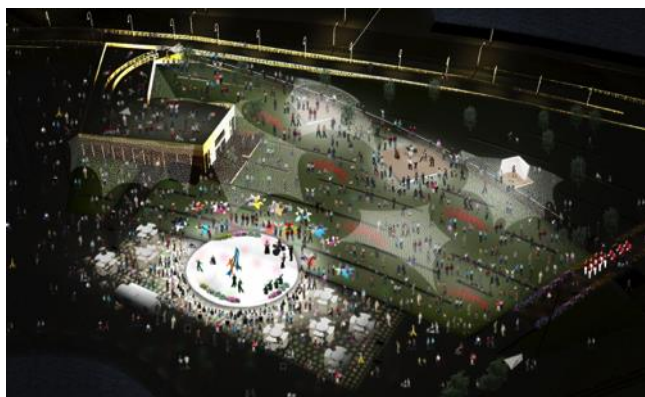
2. 会場構成(空間インスタレーション)

『不思議の森の大夜会』会場全体をひとつの「謎の生命体」に見立て、その細胞や血管のように全体に広がる巨大インスタレーションを展示します。

第1部の創作期間では国内外でワークショップを開催し、多様な市民が、つながりながら制作していきます。

アーティスト: 井上唯、密林東京

会場構成: 番場俊宏



会場イメージ図

①井上唯 《whitescaper》

前回展で象の鼻テラス内に展示した作品

《whitescaper》が、今回は象の鼻パークへ広がっていきます。形状保持の特殊な糸を手で編んでいくことで出来上がる本作品は、子供から大人まで、多様な人々が制作に参加することができます。横浜市内から東南アジア諸国まで、ワールドワイドにワークショップを展開していきます。

【参考】

《whitescaper》ワークショップ 東南アジアツアー

8月3日～13日にカンボジア、インドネシアを訪ねて、アーティストが世界中の多様な人々と出会いながら、あみあみワークショップを行います。

(7月12日～18日にシンガポールでも実施済み)

障害に関する各国の取り組みへのリサーチでもあり、同時にパラトリエントナーレのPRキャラバン隊でもあるツアーです。

②密林東京《植物インスタレーション》(仮)

植物を使ったデコレーションや空間デザインを手掛ける密林東京の有機的なインスタレーション作品が、会場内を彩ります。

第1部の創作期間では、本インスタレーションを構成する枝などをカラフルに塗っていくワークショップを開催し、市民参加により制作していきます。



《whitescaper》シンガポールでのワークショップ



植物インスタレーション 作品イメージ

3. パフォーマンス・ステージ

「ウサギ」に扮した市民パフォーマーが、訪れる来場者を「不思議の森」に誘います。

象の鼻パークにつくられた特設ステージでは、多様な出演者による個性の違いを活かしたダイナミックな現代サーカス「大夜会」が繰り広げられます。クライマックスは、会場中がとけあいひとつになる「sense of oneness」の瞬間が出現します。

また、10月8日(日)、9日(月・祝)は、パラトリエンナーレをフルコースで楽しめる船も出航します(P4参照)。

①案内役ウサギのダンス劇

2017年6月3日のオーディションを経て、公募で集まった総勢60名の市民パフォーマーが、障害の有無を超えて、身体をつかった創作表現に挑みます。ウサギは、「不思議の森」に迷い込んだ来場者を案内するほか、パークに広がる4つのアート・ステージの作品に紐付いたダンス劇を披露します。

演出: 熊谷拓明

【アート・ステージでのウサギのダンス劇実施時間(予定)】

10月7日(土) 18:30~19:00

10月8日(日)、9日(月・祝) 16:30~17:00、19:00~19:30

②多様な人々による現代サーカス(メインパフォーマンス) **詳細追加**

象の鼻パークにつくられるお皿型の特設ステージには、国内外様々な場所で作られたパフォーマンスが集結します。

お皿に盛り付けられたフルコース料理をイメージし、下記(a~e)のパフォーマンスが3~5分のオムニバス構成で、華やかに繰り広げられます。ラストは、会場中がとけあい、ひとつになる「sense of oneness」の瞬間を生み出します。

演出: 金井ケイスケ

テクニカルディレクション: ルフトツーク+海老原良行

音楽監督: 坂東美佳 衣装: 武田久美子 ヘッドプロップス: 藤原一毅 ヘアメイク: 石原桃子

出演: 定行夏海、さとうあい、ひろみ、松永紬 ほか a~e 出演者

【メインパフォーマンス実施時間(予定)】

10月7日(土) 19:20~19:50※

10月8日(日)、9日(月・祝) 17:00~17:30、19:30~20:00

※10月7日(土)は、公開リハーサルとして、ディレクターの解説付きで実施します。

a. 大歳芽里 カンボジアでの滞在制作 **!!NEW!!**

日本のコンテンポラリー・ダンサーの大歳芽里が、カンボジアの障害のあるアーティストとともに、共同制作を行います。

90年代のポル・ポト派の独裁政権崩壊後、それまでなかった障害者の社会参画が急激に進み、他の東南アジアの国では見られないような新たな取組をみせるカンボジアの障害者アート団体の活動に着目。既成概念にとらわれないエネルギッシュな創造性に触れながら、大歳芽里が現地滞在制作を行った成果を発表します。

出演: 大歳芽里、ソクン、クライング・ヴァンディ、サラヴィ・ロウン、フォン・ソフィク(以上4名カンボジアより)

協力: Krousar Thmey、Epic Arts、Phare Performing Social Enterprise



a イメージ:

Phare Performing Social Enterprise リハーサル風景

b. 高校生ダンサー神澤祥吾と高津会の Krump **!!NEW!!**

松本盲学校に通う、高校生ダンサー神澤祥吾がストリートダンスの一種、Krumping に高津会とともに挑戦します。

長野での制作を経て、ファイナルステージを盛り上げます。

出演: 神澤祥吾、高津会

c. エアリアル(空中パフォーマンス) **!!NEW!!**

ロンドンオリンピック・パラリンピック大会にてエアリアル指導を行い、開会式を成功に導いたティナ・カーターの指導を受けたパフォーマー達が空中芸に挑戦。『不思議の森の大夜会』の特設ステージに巨大なエアリアルトラスが設置され、観客の目の前で技が繰り広げられます。

出演(予定): 吉田亜希、かんばらけんた、鹿子澤拳、南雲麻衣、森田かずよ



c イメージ: SLOW MOVEMENT -Next Stage Showcase & Forum(2017)より

d. パラトリマーチ **!!NEW!!**

ダブルフェイスの坂口修一郎ディレクションによる市民マーチングバンドがパフォーマンス・ステージに登場。

坂口から指導を受けた大学生たちが神奈川県内福祉施設の方たちとの音楽ワークショップを経て、ヨコハマ・パラトリエンナーレ 2017 で発表します。本番当日の飛び入り参加も OK。たくさんの市民とともに、会場を賑やかに練り歩きます。

アーティスト:坂口修一郎 ほか

※本事業は、厚生労働省による平成 29 年度障害者芸術文化活動普及支援事業の一環として開催されます。



d イメージ:
ヨコハマ・パラトリエンナーレ 2014 より

e. あしおとであそぼう! in パラトリエンナーレ **!!NEW!!**

布製の簡易タップシューズ「おとたび」を使って、神奈川県内福祉施設で、知的障害のある方達と、タップダンスの輪を作る「あしおとでつながろう! プロジェクト」がヨコハマ・パラトリエンナーレ 2017 で開催されます。タップダンスのワークショップ参加者が、パフォーマンス・ステージにも参加します。観客を巻き込みながら、楽しくあしおとを踏みならします。

アーティスト:おどるなつこ

※本事業は、アーツコミッション・ヨコハマによるクリエイティブ・インクルージョン活動助成事業として開催されます。



e イメージ:
「あしおとでつながろう! プロジェクト」の様子

ツアー型パフォーマンス:「不思議の森の大夜会」フルコース ※10/8(日)と10/9(月・祝)のみ実施

みなとみらいから案内付きの船に乗り、不思議な世界へと誘われるツアー形式のパフォーマンス。

10月8日(日)と9日(月・祝)の2日間、1日2回実施します。

参加者は、「不思議の森」のウサギの案内のもと、アートステージを鑑賞した後、最後にメインステージに集合し、特別席で約30分間のショーを体験します。

日時:10月8日(日)、9日(月・祝) 15:30~17:30、18:00~20:00

料金:3,500円(税込)

内容:ぷかり棧橋からピア象の鼻までの乗船、ウサギによるパフォーマンス鑑賞、メインステージでの特別席での鑑賞

発売日:8月20日(日)12:00 発売開始、先着順

購入方法:①オンライン予約(<http://www.paratriennale.net>):クレジットカード決済

②メール、FAX、電話でのお申し込み:事前お振込決済

メール: ticket@paratriennale.net、FAX:045-661-0603、電話:070-5453-7154(10:00~18:00)

※介助者1名込みペアチケットあり:5,000円(税込)(演出上、介助者は体験が異なる場合があります)②のみで受付

※各回、5人グループでのツアー型のプログラムになります。

※お申し込み後、グループ分けいたしますので、配慮の必要な方はお申し込み時にお書きください。(視聴覚の障害、車椅子ほか)

4. アート・ステージ !!NEW!!

障害のある方と多様な分野のプロフェッショナルによる現代アート作品を、象の鼻テラスやパーク内で展開します。

① ダイアログ・イン・ザ・ダーク × 真鍋大度 × 石橋素 × 森永邦彦

ダイアログ・イン・ザ・ダークとの対話から見えない世界を表現する服を制作。
インスタレーション、パフォーマンスとして発表。



②イメージ：
パトリエンナーレ 2017 トレーラーより

② シーダひのき工房 × 小林勇輝

パフォーマンスアーティスト・小林勇輝が横浜市内の福祉施設「シーダひのき工房」にて制作を行い、施設で過ごしながら創作するオブジェクトなどをインスタレーションとして発表。作家自身によるパフォーマンスも行います。



③イメージ：MIWA KAKUTA 過去作品

③ 澤村祐司 × MIWA KAKUTA

コンテンポラリー・ジュエリーを制作する MIWA KAKUTA が盲の箏曲家・澤村祐司との対話を通して、見える・見えないを超えて感覚を共有する体験型・彫刻的ジュエリーとそれを用いたパフォーマンスを制作。

④ 新川修平(片山工房)

「人」と「表現」を考える場をコンセプトに活動する神戸市の福祉施設「片山工房」の新川修平が右足でペンキの入った容器を蹴るというパフォーマティブな技法(澤田技法)で絵画の制作を行ったメンバー澤田隆司氏との創造体験を入り口とし、横浜市内の施設とともに新たな創作表現を探ります。このプロジェクトを通じて、「福祉」と「共創」の本質に迫る取り組みです。



④イメージ：
片山工房 澤田氏の創作風景と作品

5. フード・ステージ !!NEW!!

障害者施設とフードデザイナーによる、食のプロジェクトが「大夜会」のテーブルを彩ります。

① 市内福祉施設 × 山モコ山による フード屋台

フードデザイナー山モコ山が横浜市内の食品を製造する福祉施設とコラボレーションし、新メニューを開発し、提供。ピザを含む屋台飯 4 種とパフォーマンス中に提供するスペシャルフードを開発します。

アーティスト：山フーズ(小桧山聡子)、中山晴奈、モコメシ(小沢朋子)

参加予定施設：ショコラボ、ポタニカルカフェ おからさん、ジャスミン



①イメージ：山モコ山過去作品

② かたるべ会 × 青木拓磨の 歌うピザ屋

フード屋台の1つである「ピザ屋」にあわせてパフォーマンスを行います。ピザの提供とともに歌・楽器・ダンス・演劇などをミックスした短いパフォーマンスを展開します。

アーティスト：かたるべ会、青木拓磨

上記の他にも、全国の障害者施設などでつくられた商品の物販スペースや、当日参加可能なワークショップスペースなどを配置します。

ワークショップ予定アーティスト：アンジー・シアー(シンガポール)



②イメージ：青木拓磨「象の鼻合唱団」

フェスティバルテーマについて

「sense of oneness」とけあうところ

「first contact はじめてに出会える場所」で、背景の異なる相手が今この環境で「何がバリアになるのか」ということをく想像し、そのバリアを取り除く方法を共にく創造>することの大切さを学びました。あれから3年。世界はグローバリゼーションやダイバーシティという理想を掲げながら、止まらない比較と競争が、差別や紛争をうみだし、自分だけを守るバリアを次々とつくり出しています。こうした世界の流れに抗いながら、今日も成長を続けるパラトリエナーレに「sense of oneness とけあうところ」というテーマをつけました。

この秋、多様な分野のアーティストと市民が、『不思議の森の大夜会』をひらきます。たとえ異なる背景をもっている、強い個性をもつ者同士でも“ひとつになれる”ということを感じて。あ！ウサギたちの「時間がない！」という声が聞こえてきました。このく不思議の森>に向かう船に乗る方法はただひとつ。自分ではない別の誰かを想像し、とけあい、ひとつの世界を創造すること。さあ、あなたも乗り遅れないで。まもなく出航です！

ヨコハマ・パラトリエナーレ 2017 総合ディレクター 栗栖良依

総合ディレクター



栗栖良依 くりす・よしえ

「日常における非日常」をテーマに、アートやデザインの領域に収まらない自由な発想で、異分野・異文化の人や地域を繋ぎ新しい価値を創造するプロジェクトを多方面で展開。2010年、骨肉腫による右下肢機能全廃で障害福祉の世界と出会う。翌年、横浜ランデヴープロジェクトのディレクターに就任し、市民参加型ものづくり「SLOW LABEL」を立ち上げる。ヨコハマ・パラトリエナーレ 2014(総合ディレクター)で、「日本のコ・クリエイションアワード 2014」(電通・インフォバーン)受賞。タイムアウト東京 LOVE TOKYO AWARDS 2016で「face of tokyo」、第65回横浜文化賞「文化・芸術奨励賞」受賞。

アクセシビリティ —誰もが参加できるフェスティバルを目指して

ヨコハマ・パラトリエナーレではあらゆる人々が多様な形で関わり、アクセシビリティや創作の輪を広げていきます。創作においては、2014年の開催時に課題となった障害者の芸術活動へのアクセスについて、2014年以降育成してきた支援人材のアクセスコーディネーターやアカンパニスト(*)を配置しています。第2部の発表期間では、あらゆる障害のある人も楽しめる会場構成やプログラムづくりをめざすことに加え、第1部の創作期間にてアクセシビリティ研究講座を受講した市民スタッフからも活動します。

(*)障害のある方の創作活動を支える「アクセスコーディネーター」と「アカンパニスト」

障害のある方がその場へ行くまでのアクセス、参加するためのコミュニケーションなどを支援するため、「アクセスコーディネーター(障害のある方が参加するための環境を整える人)」と「アカンパニスト(一緒に創作活動をする人)」の発掘と育成に力を注いでいます。ヨコハマ・パラトリエナーレ 2017では、これまで蓄積したノウハウを活かし、より質の高い作品作りを目指します。これまでのアクセシビリティの取り組みはウェブサイトでご覧頂けます。<http://www.slowlabel.info/project/access/>

第2部「発表」期間に活動いただける市民スタッフを大募集！

ヨコハマ・パラトリエナーレはみんなで作る芸術祭。市民一人一人の創作への参加を目指しています！創造の場を共有し、アクセシビリティについて考え、行動してみませんか？

募集期間： 2017年7月21日(金)～2017年9月1日(金)
活動期間： 2017年10月2日(月)～2017年10月10日(火)
活動場所： 象の鼻テラス及び象の鼻パーク
業務内容： 作品製作補助・受付・来場者案内・会場見回り・撤去作業・その他
待遇： オリジナルTシャツ進呈／SLOW LABEL 商品 20%OFF／横浜市市民活動(ボランティア)保険 適応
※交通費、食費などの支給はありません

詳細はこちら→<http://www.paratriennale.net/recruit/150/>

※ 第1部「創作」期間から参加する市民スタッフも随時募集中。詳細はウェブサイトでご確認ください。

1. コンセプト&ドキュメント展示



Photo: Takahiro Tsushima

現代芸術活動チーム 目【め】

個々のクリエイティビティを特性化し、連携を重視するチーム型芸術活動。中心メンバーは、アーティストの荒神明香、ディレクターの南川憲二、制作統括の増井宏文の3名。果てしなく不確かな現実世界が実感に引き寄せられる体験を作品として展開。代表的な作品に、「たよらない現実この世界の在りか」/資生堂ギャラリー、「世界に溶けるドキュメント」/ヨコハマ・パラトリエンナーレ 2014、「おじさんの顔が空に浮かぶ日」/宇都宮美術館館外プロジェクト、「憶測の成立」/越後妻有トリエンナーレ、「Elemental Detection」/さいたまトリエンナーレ 2016、などがある。



港南福祉ホーム こうなんふくしホーム

横浜市港南区の閑静な住宅街にある障害者地域活動ホーム。メンバーの多くは、知的障害にダウン症、脳性麻痺、心臓疾患などを併せ持つが、豊かな感性とリズムにより、様々な作品を生み出す。その刺繍一針一針、織り物一織り一織りに組み込まれる真摯さは「人と人」「社会と社会」を繋ぐ架け橋となっている。

2. 会場構成



井上 唯 いのうえ・ゆい (アーティスト)

1983 年生まれ。金沢美術工芸大学大学院染織専攻修了。滋賀在住。人が自然と関わるなかで生み出してきた知恵や手仕事に惹かれ、織り・編み・染め・縫いといった手法を主に用いながら、そこに別の視点を引き入れることで、特定の場所に対して新しい何かを存在させるような制作を行う。各地で、滞在制作や、市民参加型の作品制作、ワークショップも行っている。主な展覧会:「瀬戸内国際芸術祭 2016/SOKO LABO」(香川)、「PORT JOURNEY San Diego⇄Yokohama」2015(アメリカ、横浜)、「六甲・ミーツ・アート 2013 芸術散歩」(兵庫)、「神山アーティスト・イン・レジデンス 2011」(徳島)、「粟島アーティスト・イン・レジデンス 2010 / Autumn」(香川)



密林東京/ACCO SUZUKI みつりんとうきょう (フラワーアーティスト)

武蔵野美術大学卒業後、某大手老舗花屋で働きながら、お花の仕事の基礎を学ぶ。学べば学ぶほど「型にはまらずに植物で遊びたい」という思いが強くなり独立。まるで絵の具で絵を描くように自由な発想を旨とした、完全オーダーメイドによる植物アートの制作を開始。2013 年秋に「密林東京」を発足。商業施設などの空間づくりから、ウェディング、ライブデコレーション、アレンジメントやアクセサリー製作まで幅広く手掛けている。



番場俊宏 ばんば・としひろ (建築家)

abanba 主宰。横浜を拠点に、建築を中心に様々な「もの・こと」のデザインをしている。神奈川県生まれ。東海大学工学研究科修了。2002-2004 C+A。2005-2009 KOIZUMI atelier。2010-abanba(株式会社エイバンバ)設立。主な建築作品:横浜市電保存館しんぼーる。成瀬のオフグリッドハウス。六本木の庫裡。主な受賞歴: 神奈川建築コンクール優秀賞「小高町の家(横浜のオフグリッドハウス)」。グッドデザイン賞「小石川の集合住宅」。豊田市都心地区空間デザイン検討業務プロポーザル最優秀賞。

3. パフォーマンス・ステージ

演出



Photo: Kana Murayama

熊谷拓明 くまがい・ひろあき (ダンス劇作家、ダンサー)

ジャズダンス、バレエ、タップ、コンテンポラリーなどを学び、スタジオインストラクターとして数々の舞台、イベントに出演。その後、アーティストのサポートダンサーやバレエダンサーへの振付、演出など活動の場を広げる。2008 年、シルクドソレイユの新作クリエイションに参加するためモントリオールへ渡った後、ラスベガスにて2年間で800ステージに出演。2010年帰国、自ら演出、振付する作品をダンス劇と呼び、独特なゆるいセリフと、しなやかな動きで物語を繰り広げる作品を数多く発表。



Photo: 幸田森

金井ケイスケ かない・けいすけ (サーカスアーティスト)

中学で大道芸を始める。97 年文化庁国内研修員として能を学んだ後、99 年文化庁海外派遣研修員として、日本人で初めてフランス国立サーカス大(CNAC)へ留学。卒業後フィリップ・デュクレ演出のサーカス『CYRK13』で2年間のヨーロッパツアー。その後、フランス現代サーカスカンパニー「OKIHAIKUDAN」をセバスチャン・ドルトと立ち上げ、ヨーロッパ、中東、アフリカなど 35 カ国で公演。2009 年帰国。2015 年より SLOW MOVEMENT パフォーミングディレクター。パリ市とアンスティチュ・フランスが主催する LesRecollets2016 を受賞。

各パート振付・出演者:



定行 夏海 さだゆき・なつみ (ダンサー) **!!NEW!!**

フィジカルシアターカンパニーGERO 所属。幼少の頃から西アフリカの伝統芸能を柳田知子氏と母である定行雅代より学ぶ。中学から NPO 法人みやぎダンスのインクルーシブダンス活動・舞台作品に参加。京都造形芸術大学でコンテンポラリーダンスを学び、現在ダンサーとして舞台に立ちつつ、みやぎダンスでの指導や SLOW MOVEMENT でアカンパニストとして作品に出演するなど、インクルーシブダンスの現場を中心に活動している。「Afro Dance Groove」インストラクター。

a. 大歳芽里カンボジアでの滞在制作



大歳 芽里 おおとし・めり (ボディアーティスト) **!!NEW!!**

有馬バレエ教室にてバレエをはじめ、昭和音楽芸術学院バレエ科を卒業。ストリート・ジャズを都内クラブなどで踊る。南アフリカの振付家ヴィンセント・マンソーのツアーに参加。アンジェ国立現代舞踊センターを卒業。瀬戸内サーカスファクトリー、ヨコハマ・パラトリエンナーレ 2014、国際児童・青少年演劇フェスティバルの国際共同制作、「TOA Music Workshop ANIMAL CONCERTO」などに参加。知的障害者通所施設でレギュラー講師を務める他、看護学校やデイケア、視覚など様々な障害を持つ人との WS 講師やアシスタントを務める。

Photo: 白井孝明



Sakun ソクン (ダンサー) /カンボジア **!!NEW!!**

エピック・アーツのムーヴメントワークショップを通じてダンスを好きになり、その才能に目覚める。すぐに、東南アジアで唯一の完全なインクルーシブ・プロフェッショナル・ダンスカンパニーであるエピック・エンカウンターズのメンバーに選ばれる。カンパニーメンバーとして、2013 年よりコンテンポラリーダンスを習い始める。また、様々な国際的な振付家とモダンダンスを探求、創作する。英国やシンガポールなどの海外公演も多く参加している。



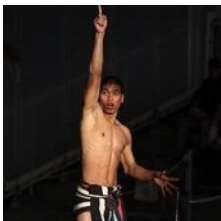
Klaing Vandy クライング・ヴァンディ (ミュージシャン) /カンボジア **!!NEW!!**

21 歳。視覚障害。カンボジアの様々な楽器を演奏するタケオで生まれる。12 歳の時、クルサー・トゥメイの学校でカンボジアの管楽器タケを演奏し始める。続いて、楽器演奏への情熱から様々な楽器のアンサンブルから成るピン・ベアトを演奏するようになる。夏休みに、クルサー・トゥメイチームと障害のある子どもたちの教育の権利向上のためのカンボジア国内演奏ツアーに参加。2015 年からはプライベートでもバンド活動を始める。2016 年には、クルサー・トゥメイ 25 周年記念の新作パフォーマンスのために新たな曲の創作にも参加。将来は、自らのバンドを持ち、音楽の先生となることが夢である。



Sarav Roun サラヴィ・ロウン (サーカスアーティスト) /カンボジア **!!NEW!!**

1988 年生まれ。10 歳からファー・ポルルー・セルパでサーカスを学ぶ。すぐに頭角を現し、国内外の公演に参加。アクロバティックに有利なとても小さな身体から、ダイナミックな技を繰り出す。2009 年には、オーディションを経て、サーカスのパートナーであるフォン・ソフィクとともに、フランスのナショナル・センター・オブ・サーカスアーツ (CNAC) で4年間のトレーニングを受け、国際的なキャリアを積み始める。フランスやスイスの幾つかのサーカスカンパニーに参加した後に、2015 年にカンボジアに帰国。国内での文化イベントに出演している。



Huon Sopheak フォン・ソフィク (サーカスアーティスト) /カンボジア **!!NEW!!**

聴覚障害を持つ。フォンは聾や啞への差別を反転させて、誰よりもグルーヴや内なるリズムを秘めたダンスを踊り、あらゆるサーカスの訓練を習得している。非常に貧しかった少年時代に、ファー・ポルルー・セルパのサーカス学校の創設者デ・クフォン氏に見出される。すぐに才能は花開き、2003 年から 2009 年の世界ツアーにも参加。2009 年から 2012 年には、フランスのナショナル・センター・オブ・サーカスアーツ (CNAC) に参加し、国際的キャリアの第一歩を踏む。以来、多くのヨーロッパのサーカスカンパニーと協働している。

b. 高校生ダンサー神澤祥吾と高津会の Krump



神澤祥吾 (ダンサー) かんざわ・しょうご **!!NEW!!**

2000 年生まれ。長野県諏訪市在住。先天性の視覚障害を持つ。中学 1 年生の時、ブレイクダンスに出会い、ダンスに興味を持つ。高校 1 年生で地元にあるビーチハウスに夏から通い始め、昨年からは地域のイベントなどに多く出演している。



高津 会 たかつ・かい (ダンサー) **!!NEW!!**

お寺の住職をしている日本人の父とドイツ人の母のもと、家業を手伝いながら高校生でダンスを始め、卒業後の 2010 年に渡英。障害者の自立支援センター Orpheus Centre で 1 年間スタッフとして活動をしながら障害のある生徒達にダンスを指導。ロンドンパラリンピック開会式の芸術監督ジェニー・シーレイ (Graeae Theatre Company) と共に The Royal Opera House にて演劇作品を発表。帰国後、長野県須坂市を拠点に、各地でパフォーマンス活動を行いながら、中野西高校ダンス部の外部講師として全国大会に導く。スタジオ LUX INSPIRE 代表。ペドロ・マシャド (Candoco Dance Company 芸術監督) や、ジェニー・シーレイ来日時ワークショップアシスタントを務める。



©Lee wai leung

c. エアリアル(空中パフォーマンス)

吉田 亜希 よしだ・あき (エアリアルダンサー) **!!NEW!!**

幼少期から体操競技を始め、日体大卒業を機にエンターテインメントの世界へ進む。Tissue, ring, aerial net, code, trapeze, ladder 等の様々な空中パフォーマンスにふれたことでアートサーカスの世界に魅了され 近年では欧米にもエアリアル修行に訪れる。現在エアリアルティシューを中心に独自のスタイルで空中の自由な表現を模索。また舞台、コンサート、CM、MV 等に出演 振付で参加やオリジナルのサーカス器具を作り現代サーカス作品の創作も行う。インクルシブエアリアルの活動にも興味を持ちトレーニング方法等を学んでいる。



かんばら けんた (車椅子パフォーマー)

「二分脊椎症」という障害を持って生まれ、システムエンジニアとして働く。2015 年に SLOW MOVEMENT に出演したことをきっかけに表現活動を始め、現在は「Integrated Dance Company 響 Kyo」にも所属。2016 年には AyaBambi との共演や武道館でのソロ出演など、活動の幅を広げている。



鹿子澤 拳 かのこざわ・けん (ダンサー)

1995 年生まれ。先天性の聴覚障害がある。幼い頃よりダンスを好む。筑波技術大学ダンスサークル「Soul Impression」に所属し、本格的にストリートダンスを学ぶ。2015 年、近畿大学舞台芸術学科との合同公演 BiG-i ART FESTIVAL 2015「HALO ~踊りだす色~」でコンテンポラリーダンスに初挑戦。2016 年夏、単身渡米し、NY・Broadway Dance Center(BDC)にて様々なジャンルのダンスを学ぶ。



南雲麻衣 なぐも・まい (ダンサー)

1989 年生まれ。聾者。5 歳からモダンダンスを始め、和光大学で創作ダンスを学ぶ。風の市プロデュースと齋藤徹で遠野物語を題材にした台詞なしのコンテンポラリー舞踊「牡丹と馬」に挑む。以後、ピナ・パウシュ舞踊団の元ダンサー、ジャン・サスポータスと「聴くこと・待つこと・信じること」で共演、2013 年小野寺修二(カンパニーデラシネラ)の「鑑賞者」に参加。



Photo:藤本ツトム

森田 かずよ もりた・かずよ (義足の女優・ダンサー)

「二分脊椎症・側湾症」を持って生まれ、18 歳より芝居を始める。表現の可能性を日々楽しく考えながら、義足の女優・ダンサーとして活動。NPO 法人ピースポット・ワンフォー理事長。最近は人形作家とのコラボレーションなど、様々なジャンルの方と共に、障害を超えた身体のあり方を模索している。第 11 回北九州&アジア全国洋舞コンクールバリアフリー部門 チャレンジャー賞受賞。

d. パトリーマーチ



坂口 修一郎 さかぐち・しゅういちろう (プロデューサー/ミュージシャン)

1971 年 鹿児島生まれ。1993 年無国籍音楽のエスぺラント楽団・Double Famous を結成。音楽活動の一方、アパレルブランドを経て代官山 UNIT を設立。2010 年より故郷鹿児島でクロスカルチャーな野外イベント『GOOD NEIGHBORS JAMBOREE』を主宰。東日本大震災後には緊急支援で来日したジェーン・バーキンのサポートバンドをオーガナイズしワールドツアーに参加した。現在はランドスケーププロダクツ内にディレクションカンパニー・BAGN Inc.を設立。ジャンルを越境したイベントのプロデュースに携わっている。

e. あしおとであそぼう! in パトリエンナーレ



おどるなつこ/伊藤夏子 いたう・なつこ (ダンサー/パフォーマー/コレオグラファー) **!!NEW!!**

2002 年ヘブナーアーティスト認定。ドイツ国際平和村訪問をきっかけに、2010 年から知的障害のある方々とのタップセッション “あしおとでつながろう! プロジェクト” を展開、東北でも交流の輪が広がっている。パロック音楽との即興や“タップで文学”作品発表と並行し、可児市 ala ほかにて演劇への振付も行う。

<http://odorunatsuko.net/>

4. アート・ステージ



真鍋 大度 まなべ・だいと (メディアアーティスト/DJ/プログラマー) **!!NEW!!**

2006年 Rhizomatiks 設立、2015年より Rhizomatiks の中でも R&D 的要素の強いプロジェクトを行う Rhizomatiks Research を石橋素氏と共同主宰。プログラミングとインタラクションデザインを駆使して様々なジャンルのアーティストとコラボレーションプロジェクトを行う。



石橋 素 いしばし・もと (エンジニア/アーティスト) **!!NEW!!**

ライゾマティクスリサーチ代表。1975年生まれ。デバイス、ハードウェア制作を軸にアートパフォーマンス、ミュージックビデオ、インスタレーションなど、多域にわたり活動をしている。2011年『第15回文化庁メディア芸術祭』アート部門優秀賞受賞、同年『Prix Ars Electronica』インタラクティブ部門準グランプリ受賞。



森永 邦彦 もりなが・くにひこ/アンリアルエイジ (ファッションデザイナー) **!!NEW!!**

1980年、東京都生まれ。早稲田大学社会科学部卒業。バンタンデザイン研究所卒業。2003年、ブランド設立。ANREALAGE とは、A REAL-日常、UN REAL-非日常、AGE-時代、を意味する。「神は細部に宿る」という信念のもと作られた色鮮やかで細かいパッチワークや、人間の身体にとられない独創的なかたちの洋服、テクノロジーや新技術を積極的に用いた洋服が特徴。

2005年、ニューヨークの新人デザイナーコンテスト「GEN ART 2005」でアバンギャルド大賞を受賞。2014年、15S/Sよりパリコレクションデビュー。2015年、フランス服飾開発推進委員会主催の「ANDAM fashion award」のファイナリストに選出。2016年、南青山に ANREALAGE AOYAMA をオープン(www.anrealage.com)

ダイアログ・イン・ザ・ダーク **!!NEW!!**

みえない、が、見える! まっ暗闇のソーシャル・エンターテインメント『ダイアログ・イン・ザ・ダーク』。世界30か国・約130都市で開催され、日本では1999年より14万人が体験。参加者は完全に光を遮断した空間の中へ、グループを組んで入り、暗闇のエキスパートであるアテンド(視覚障害者)のサポートのもと、中を探検し、目以外の感覚をフルに使ってコミュニケーションをとりながら、様々なシーンを体験する。



小林 勇輝 / Yuki Kobayashi (芸術家/パフォーマンスアーティスト) **!!NEW!!**

1990年東京生まれ。2008年 University of Hawaii, Kapiolani Community College アート専攻。2010年に渡英。2014年 Central Saint Martins College of Art and Design ファインアート科卒業。同年に Royal College of Art パフォーマンス科へ日本人として初めて入学、2016年卒業。ヨーロッパを中心に各国を周り数々の展示、パフォーマンスに参加。2015年 White Cube Gallery, London にて Fluxus event scores を再演。ブリュッセルにて個展 New Gender Bending Strawberry、パリ Slick Art Fair 2015。2016年 東京にてダダ 100周年フェスティバル(Spiral)、Acting Together Yoko Ono & Rirkrit Tiravanija (ASAKUSA)。2017年 イギリスの雑誌 DAZED にて特集インタビューが掲載される。ライブ作品だけでなく、写真や映像作品にも多数携わる。



聖坂学園 シーダひのき工房 シーダひのきこうぼう **!!NEW!!**

横浜市港南区に位置する福祉施設。住宅街と高校2校が隣接し近くに公園もある落ち着いた環境の中にある。平成18年4月に通所施設としてオープンした。日常生活支援のほか、表現活動なども行っている。



MIWA KAKUTA かくた・みわ **!!NEW!!**

1988年東京都生まれ。幼少期をNYで育ち、大学でテキスタイルを学ぶ。卒業後アパレルメーカーで経験を積み、現在 Royal College of Art (英国王立芸術学院) ジュエリー&メタル学科の大学院課程に在籍中。コンテンポラリー・ジュエリーで人間の身体・動き・生活の中に存在する見えないものをパフォーマンスに可視化していく。身につけられるジュエリーからパフォーマンスとのコラボレーションまで、国内外で活動中。



澤村 祐司 さわむら・ゆうじ **!!NEW!!**

1981年3月1日 東京都出身。生田流箏三絃を、宮城社大師範 金津千重子に師事。東京藝術大学音楽学部邦楽科を経て、同大学院修士課程修了。伝統的な古典曲(地唄)などの演奏をはじめ、作曲や編曲にも取り組んでいる。詩と音楽のコラボレーション集団“VOICE SPACE”代表 箏曲『宮城会』『重音会』『森の会』『よいろの会』『箏七星』所属。



新川修平(片山工房) しんかわ・しゅうへい(かたやまこうぼう) **!!NEW!!**

1974年、神戸市長田区生まれ。特定非営利活動法人100年福祉会 片山工房 理事長。芸大中退。映像作家。20歳で阪神淡路大震災を経験し、自宅が全壊、避難所生活を半年続ける。当時、障害のある方の作業所へボランティアで通い、全ては「みな人であるを知る」。2003年・障害のある方の表現に特化した片山工房を神戸市長田区に設立。人が軸を基本とし、人をテーマに社会に投げかける。さまざまな実行委員や行政企画委員、人・アートと社会を主とした講演・執筆等多数。

片山工房: 障害のある方々に、アート(表現)が、自己の持っている能力を最大限に活用できる手法と捉え、一人一人のやりたいこと、想いを一つずつ、「カタチ」にしていけるように取り組んでいる。

5. フード・ステージ



山モコ山 やまもこやま (ケータリングユニット) **!!NEW!!**

フードデザイナー 小楢山聡子(山フーズ)、中山晴奈、モコモシによるケータリングユニット。

山フーズ(小楢山聡子)

多摩美術大学卒業。空間演出も含めたケータリングや撮影コーディネート、身体的な感覚を使った食べる提案など、独自の角度から食とそのまわりの制作を行っている。

<http://yamafoods.jp/>

モコモシ(小沢朋子)

フードデザイナー。VISION GLASS JP 代表。「食べるシチュエーションをデザインする」をコンセプトに、ケータリング、メニュー開発、各種メディアへのレシピ提供、広告のスタイリングなどを行う。2013年よりインドの耐熱ガラス「VISION GLASS」を輸入開始。日本国内におけるブランディングと卸業務を行う。

中山晴奈

東京藝術大学大学院在学中に「食とアート」を研究テーマに活動開始、ケータリングやワークショップを行う。NPO 法人フードデザイナーズネットワーク代表理事、食とものづくりスタジオ FERMENT ディレクター、慶応義塾大学非常勤講師 <http://fooddesigners.net/>



TAKUMA

青木 拓磨 あおき・たくま (シンガーソングライター／ミュージシャン) **!!NEW!!**

合唱部の先輩後輩で結成されたバンド「パウンチホイール」、歌う精神科医・星野概念率いるコーラスグループ「星野概念実験室」、その街の歌や演劇を、その街で作る、その街で演じる「マーチ」、横浜港象の鼻テラスでのワークショップから生まれた「ゾウノハナ合唱部」など、主に人の声が重なる時の包まれ感を求めて活動中。劇団ままと共に 2013 年瀬戸内芸術祭、2014 年アート小豆島、2016 年あいちトリエンナーレに参加している。

かたるべ会 **!!NEW!!**

横浜市(都筑区、緑区、青葉区)を拠点に、知的、障害のある方の就労支援・生活支援を柱に活動している。1990年に地域作業所を設立し、2003年に社会福祉法人の認可取得。法人内にバンジョークラブや劇団などを設置し、表現活動にも積極的に取り組んでいる。



anGie Seah アンジー・シアー (アーティスト)／シンガポール **!!NEW!!**

1979年生まれ、シンガポール在住。活動分野は絵画、彫刻、パフォーマンスアート、サウンド、ビデオと多岐にわたり、人間の存在や不可解さを探求している。ベルギー(アール・ド・スハールベーク)、ドイツ(ZKM センター・フォー・ニューメディア)、日本(NIPAF/福岡アジア美術館)、フランス(パレ・ド・東京、リヨン現代美術館)、シンガポール(シンガポールビエンナーレ)などでアーティストインレジデンスや展示に参加。

10年以上にわたり国内外でコミュニティとのアートプロジェクトに積極的に参加し、貧困家庭、障害者、高齢者などとワークショップを行っている。自身の芸術的活動にとどまらず人々との交流を通して人生のリアリティを感じる機会を得、活動を通し社会への理解を深めている。

■「ヨコハマ・パトリエナーレ 2017」概要

第1部 一創作 5月27日(土)～9月30日(土)

会場: 横浜市内各所

インスタレーション作品やパフォーマンスの制作など創作活動のほか、アクセシビリティについて考える講座を開催するなど、障害の有無に関わらず多くの市民の皆様に参加頂けるプログラムを実施。

第2部 一発表 10月7日(土)～10月9日(月・祝) ★10/7(土)公開リハーサル(ディレクターツアー)

会場: 象の鼻テラス及び象の鼻パーク

『不思議の森の大夜会』として、象の鼻テラス、象の鼻パークを舞台に、第1部で市民とともに創作してきた空間インスタレーション、ツアー型パフォーマンス、アートパフォーマンス、食のプロジェクトを発表。

第3部 一展示 11月～12月下旬

会場: 象の鼻テラス、横浜ラポール、横浜市内各所

第2部で展開したインスタレーション作品の一部や記録映像・写真などを横浜ラポールほか、横浜市内の施設で巡回展示します。2020年につなげるムーブメントを横浜から発信していきます。

〈ヨコハマ・パトリエナーレ 2017 開催概要〉


テーマ: 「sense of oneness とけあうところ」

会期: 平成29(2017)年5月27日(土)～12月下旬

会場: 象の鼻テラス、象の鼻パーク、横浜ラポール、横浜市内各所

主催: 横浜ランデヴープロジェクト実行委員会、特定非営利活動法人スローレーベル

共催: 横浜市

助成:  平成29年度 文化庁 文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業、



国際交流基金アジアセンター

よこはま夢ファンド(横浜市市民活動推進基金)、

SOMPO ちきゅう倶楽部 2016年度「Heart&Arts プログラム」

リコー社会貢献クラブ・FreeWill

協賛: 株式会社 JVC ケンウッド、株式会社 FREEing

協力: 神奈川県遊技場協同組合・神奈川県福祉事業協会、NEC、株式会社ケーエムシーコーポレーション、株式会社産業貿易センター、横浜市吉野町市民プラザ

認証: beyond2020プログラム



※内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局 (beyond2020プログラム事務局)が認証する日本文化の魅力を発信するとともに、2020年以降を見据えたレガシー創出のためのプログラム

公式 HP: <http://www.paratriennale.net>

9月30日(土)までの第1部期間中、トレーニングや舞台稽古、各種セミナー、ワークショップをおこなっております。一般参加が可能な会や、公開している会もありますので、ご取材・ご参加いただければと存じます。詳細は報道関係社様問い合わせまでご連絡ください。

【報道関係の皆様からのお問い合わせ先】 株式会社サニーサイドアップ 担当: 堀越、大和、細野
TEL: 03-6894-3200 FAX: 03-5413-3050 Email: paratri@ssu.co.jp

【一般の方からのお問い合わせ先】 ヨコハマ・パトリエナーレ 2017 事務局 担当: 塚田
TEL: 070-5453-7154 (10:00～18:00) FAX: 045-661-0603 Email: info@paratriennale.net